



おなかも心もいっぱいに

SECOND HARVEST NAGOYA PRESS

2012.8.20

NO.1

SECOND
HARVEST
NAGOYA
NPO法人 セカンドハーベスト名古屋

発行元 NPO法人セカンドハーベスト名古屋

〒461-0018 名古屋市東区主税町3丁目33マリア館1F

TEL052-932-2828 FAX052-982-6183

E-mail:info@2h-nagoya.org URL:http://www.2h-nagoya.org/

編集／印刷 橋本写植



セカンドハーベスト名古屋理事長挨拶



セカンドハーベスト名古屋を支援していただいている皆様へ
まず、私たちの活動を支えていただいている皆様に心からの感謝の気持ちをお伝えいたします。

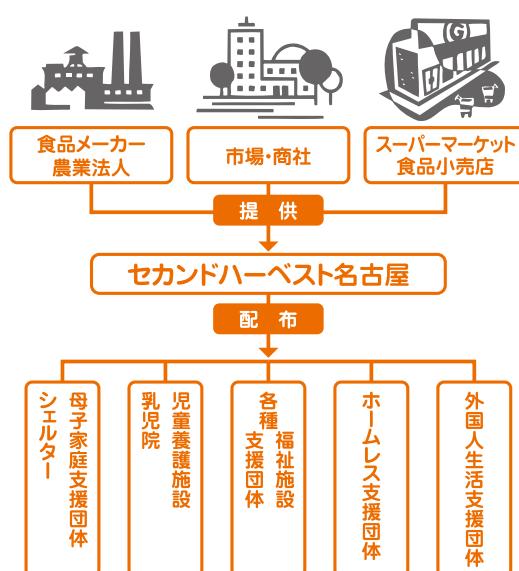
私たちは、東海圏の施設・団体に食料品をお配りしている他、「ごはん応援箱」という方法で大震災の被災者の方々への支援も続けてきました。しかし、こういう活動を続けられるのも多くの会社が食品を寄付していただき、そしてたくさんの支援者の皆様から多大の貢献をしていただいているからです。このような援助なしには、一歩も前に進めません。どうか、協力を続けていただきたいとお願いします。そして、スタッフの皆さん、いろいろ知恵を出し合って十分な食料品を配れるように一生懸命がんばりましょう。

セカンドハーベスト名古屋 理事長 ジョン・シーランド

セカンドハーベスト名古屋とは？

品質には問題がないものの、印字ミスやパッケージの破損、賞味期限が近い等の理由で廃棄される運命の食品を企業から提供してもらいます。そして、生活困窮者を支援している各種支援団体などを通じて、必要とする人々にその食品を配布しています。

セカンドハーベスト名古屋の活動内容



上半期セカンドハーベスト名古屋の取扱量報告

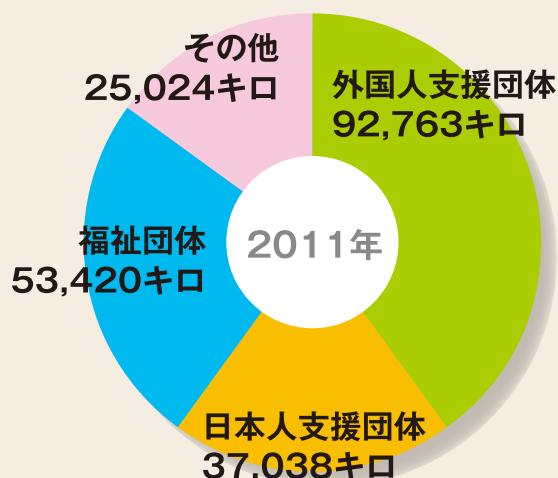
■取扱量

2011年の総取扱高は約208.3トン(前年度比230%増)と急激に取扱量が増えました。

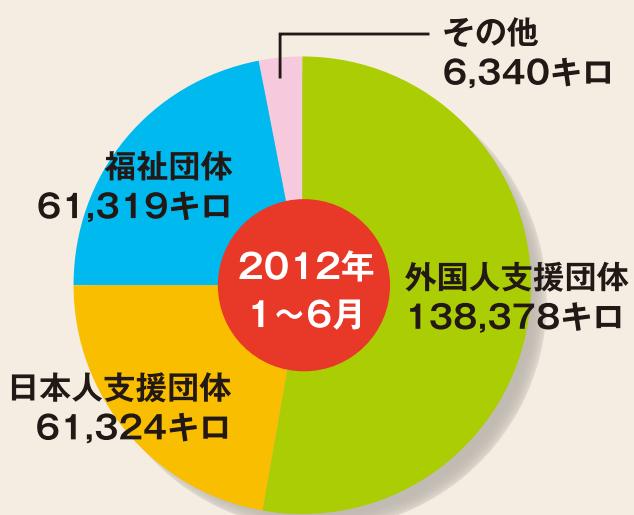
2012年度に入りさらに増加し、2012年1~6月までで267.4トン(前年同期420%増)を記録しました。



■配布先



※その他には被災地支援を含む



※その他には被災地支援を含む

2011年は約4割を外国人支援団体へ配布しました。

この割合は2012年度さらに増加し、2012年1~6月においては約5割を外国人支援団体へ配布しました。

2012年度セカンドハーベスト名古屋の特徴は2つあります。

◆急激な取扱量の増加

◆外国人支援団体への食糧支援の増加

■外国人支援

在住外国人、特に中南米出身者は県内の製造業、とりわけ自動車産業における貴重な戦力として就労されていましたが、2006年の金融危機直後には真っ先に解雇の憂き目に遭われ、今現在も再就職ができない方や最低レベルの生活を強いられている方も数多くいらっしゃいます。

そこで、私たちはフードバンク事業を活用し生活に困っている方々、特に在住外国人を支援するため、食のセーフティーネットづくりを目指しています。



特集!! 「のわみ相談所」

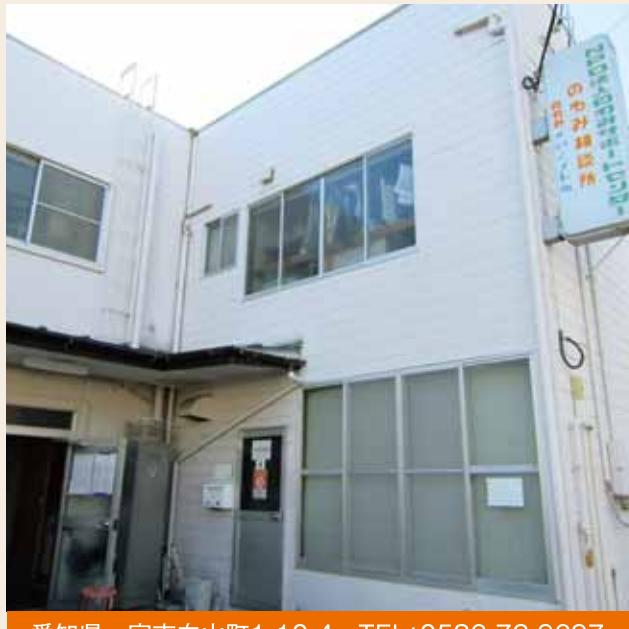


セカンドハーベスト名古屋は2011年に208トンもの食品を、必要とする方々へお配りしました。しかし、食糧支援をすることでどのような効果があるのか？そんな疑問がわいてきました。そこで、2HNが支援している団体のうち、最近特に新聞・TVの注目を集めている「のわみ相談所」を訪ね、当団体が食糧支援することでどのような効果があるのかを探ってきました。

のわみ相談所は新たにのわみサポートセンターを設立し、一宮駅から徒歩15分ほどの住宅地のなかで一時宿泊所、食堂、便利屋などを運営しています。

のわみ相談所が注目される理由は、利用者の自立成功率が高いことにあります。

2011年に一時宿泊所を利用し支援をうけたホームレス110人のうち、なんと72人の人が就業先を見つけ、生活保護を受けずに社会復帰を果たしたのです。全国の同様な施設での自立率平均が3割であることを考えると、これは驚異的です。仮に彼らが一宮市から生活保護を受けていた場合、その必要経費は年間およそ一億二千万です。のわみさんの活動は市の出費を削減したともいえます。



愛知県一宮市向山町1-10-4 TEL:0586-72-9697



「人間にとて大切なものはまず住むところなので、相談所で初めに住居を確保します。しっかりと食べ、着るものもちゃんとして、きちんと働くことが自立へつながる」と考えています。衣食住でなくて『住食衣そして職』なのです。」 のわみ相談所代表 三輪さん

では何故のわみ相談所ではこのような素晴らしい成果をあげられるのでしょうか？

実はそれは私たち2HNの活動の成果でもあります。

のわみ相談所が運営する一時宿泊所の利用料は、食費込みで月にわずか2万円です。

そのため、新しく仕事を始めて得た収入から貯金をし、資格取得や一般のアパートに入る準備をすることができます。これが自立率7割の秘訣です。そして、この格安の利用料を可能にしている理由のひとつが、私たち2HNからの年間10トン以上に及ぶ食糧支援なのです。

のわみがやっていけるのはハーベストさんのおかげですと、代表の三輪さんは話してくださいました。今年に入ってから食糧支援の量はさらに伸び、6月まですでに27トンもの量を提供しています。昨年、のわみ相談所は新しい事業として「便利屋のわミー」を開業されました。相談所利用者のうち、もともと大工や内装業をしていた方々が中心になって始めました。今では地域・行政からも頼られる存在になっています。

最後に、今回の特集を通してのわみ相談所のような人を支える団体、その団体を支える大切な役割を2HNが果たしていることを改めて実感しました。

食べられるのにも関わらず捨てられてしまう食べ物を食べるのに困っている人に届ける、フードバンク活動。この活動を通じて、食品ロス問題、生活困窮者問題の解決に今後とも努めてまいります。(取材／事務局:山内大輔)

本岡俊郎事務局長挨拶

東日本大震災から1年数ヶ月、フードバンク活動を巡る環境は大きく変わってきたように感じます。震災の衝撃は、日本人のこれまで暮らし方に反省を迫りました。毎日の生活で、物質的な満足を得る事が幸せの物差しになっていたのか？この反省は、個人だけでなく企業の経営にも影響を与えていくようです。

今いくつかの大きな食品会社が無駄に捨てないで、フードバンクで有効に使ってもらおうとされています。その結果として昨年の暮れ頃から、2HN(セカンドハーベスト名古屋)の扱い量が急激に増加してきました。最近の実績は、そういう変化の反映でもあります。しかし、まだほんの一部の食品会社が姿勢を変えただけで、時には消化にてこずる程の量があふれます。もし、続々と食品会社が提供し始めれば、今の日本のフードバンクの許容量を超てしまうでしょう。

また、企業が提供する食品の消化に努力しているだけで良いのか？本来のフードバンクの役割を忘れていないかという問題もあります。

生活に困っておられる方々が必要とする食物を探す努力をしていないか？例えば、お米やパンの



入手ルートの開拓をする必要があるのではないか？そういう努力を続けていかねばなりません。

また、今年は将来に向けての運営基盤を構築しようとしています。これまでには、いくつかの財団の助成金に頼っていましたが、来年からは期待することができません。既に始めていますが、認定NPO法人の資格を取るために運動もそのひとつです。どうか、関係者の皆様がたのご協力を得ながら進んで行きたい次第です。よろしくお願ひいたします。

認定NPO法人へのご協力とご支援のお願い



■浜松で行われたブラジル人の収穫祭「Festa Junina」
屋のフードバンク事業を維持し発展させていくため、また、生活困窮者支援活動など多くの方たちに
へ食べ物を届け助ける為に、そのために、我々の活動にご理解を示して下さる方々にご協力とご支援
をお願いしております。

認定NPO法人は、NPO法人の中でも、運営組織及び事業活動が適正で、公益を増進し、一定の基準を満たして所轄庁の認定を受けたNPO法人のことをいいます。認定NPOになると、その法人に寄付した個人や法人が税法上優遇されるメリットがあります。

2HNは認定NPO法人を目指しています。条件として、2年間、毎年少なくとも100人の方から3000円以上の寄付を集めなければなりません。セカンドハーベスト名古屋

銀行振り込み・郵便振り込みでの寄付はこちら

銀行口座

銀 行：三菱東京 UFJ 銀行 栄町支店
口座番号：普通 0015287
口座名義：特定非営利活動法人
セカンドハーベスト名古屋

郵便口座

ゆうちょ銀行：二一八支店
口 座 番 号：普通 3805775
口 座 名 義：特定非営利活動法人
セカンドハーベスト名古屋